Tohoku Women's Hurdling Project

平成18～20年度
杜の都女性科学者
ハードリング支援事業
活動報告書

振興調整費

2006 2007 2008

TOHOKU UNIVERSITY

東北大学　女性研究者育成支援推進室

「ハードリング支援事業」は、女性研究者がその能力を最大限発揮できるよう、様々な支援策を実施しました。

Support for Child / Family Care

1 育児・介護支援プログラム【女性研究者の育児と研究の両立を支援】

◎支援要員制度：支援要員派遣制度、ベビーシッター利用料補助制度

	支援要員制度（実験補助者の年度単位派遣）	ベビーシッター利用料補助制度（利用料の一部補助）
平成18年度	●理学研究科 …… 1名 ●工学研究科 …… 3名 ●金属材料研究所 …… 2名 ●加齢医学研究所 …… 1名	●歯学研究科 …… 1名 ●工学研究科 …… 2名
平成19年度	●理学研究科 …… 1名 ●工学研究科 …… 3名 ●金属材料研究所 …… 2名 ●流体科学研究所 …… 1名	●工学研究科 …… 3名 ●流体科学研究所 …… 1名
平成20年度	●理学研究科 …… 1名 ●工学研究科 …… 3名 ●農学研究科 …… 1名 ●医工学研究科 …… 1名 ●金属材料研究所 …… 1名 ●流体科学研究所 …… 1名	●歯学研究科 …… 1名 ●薬学研究科 …… 1名 ●工学研究科 …… 3名 ●環境科学研究科 …… 1名 ●医工学研究科 …… 1名 ●加齢医学研究所 …… 1名 ●流体科学研究所 …… 2名

◎間接的支援：制度改革

＊短時間勤務制度
（平成19年度試行:2名、平成20年度本格制度:9名）

＊育休取得に伴う任期延長
（平成20年度～）

＊業績評価制度改革

支援制度利用者：延べ39名
研究に集中できる時間を確保するシステムとして認識・理解の拡大

Voice
- 「子育てのため懸念された業務の滞りが軽減された」
- 「精神的な負担が大幅に減り、安心して仕事と育児に専念することができた」
- 「この制度のおかげで、国内外会議発表、邦文・欧文誌投稿と急激に研究が進んだ」

女性教員の離職の回避、研究業績の向上、表彰、昇進
支援要員制度：優れた人材の研究継続機会・埋もれた人材の職場復帰
ベビーシッター利用料補助制度：非施設型保育として他大学から注目

個人の問題として頑張れる特別な環境の人だけが活躍するのでなく、優秀な人材が研究を継続できる制度として

Improvement of Facilities

2 環境整備プログラム【女性研究者の職場環境の改善】

◎大学病院 病後児保育施設

全学の教職員・学生の利用、
7時30分～18時

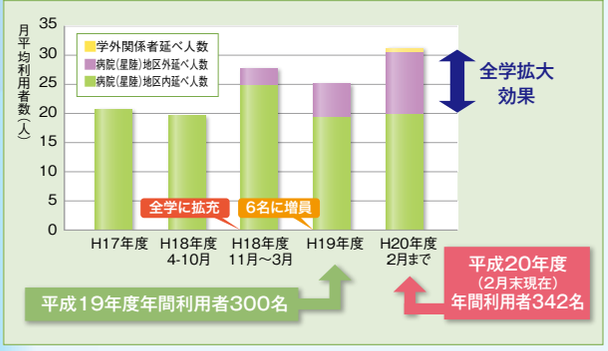
◎利用者数の増大

年間300名以上が利用

Voice
- 「全学利用ができるようになってよかった」
- 「学内なので安心して預けられる」
- 「設備環境やスタッフの対応、アドバイスが暖かい」

内閣府男女共同参画白書「男女共同参画の現状と施策」への記載（平成19年6月）
他大学・機関からの見学

病後児保育室利用者数推移



■自然科学系部局（研究科・研究所）での女性休憩室の設備

部　局	既設	平成18年度	平成19年度
理学研究科	○		平成18年度全研究科完了
医学系研究科	○		
農学研究科	○		
生命科学研究科	○		
環境科学研究科	○		
情報科学研究科	○	設備更新	
薬学研究科	○	設備更新	
工学研究科・医工学研究科	○	設備更新	
歯学研究科		新設	
流体科学研究所	○		平成19年度全研究所完了
電気通信研究所	○		
金属材料研究所	○	設備更新	
多元物質科学研究所	○	設備更新	
加齢医学研究所			新設

Support for Next Generation

3 次世代支援プログラム【次世代の女性研究者の育成】

女子大学院生支援、小中高校生への理系進路啓発

◎サイエンス・エンジェル制度

自然科学系各部局女子大学院生：141名

身近なロールモデルとして
母校への出張セミナー：28校
科学館等での科学イベント活動：7校

自然科学研究への使命感・責任感の醸成、研究者の卵としてのスキルアップ

Voice

- 「自分の研究分野以外の研究者・大学院生と接することができ、視野が広がった」
- 「共通の問題をシェアすることができた」
- 「他のSAと出会うことにより、研究を続けていく勇気をもらった」

サイエンス・エンジェル
合計 141名（MC66名、DC75名）

	H18	H19	H20
理学研究科	10	8	8
医学系研究科	4	5	6
歯学研究科	4	2	1
薬学研究科	5	7	8
工学研究科	3	8	9
農学研究科	1	6	5
情報科学研究科	1	1	2
生命科学研究科	11	11	7
環境科学研究科		4	2
医工学研究科			2
合　計	39	52	50
M　C	19	21	26
D　C	20	31	24

▲青森東高校 H20.10.10.

▲天文台 H20.9.6-7

サイエンス・エンジェル制度の成果

- 理系進路啓発（科学への夢）
  ロールモデルとして（中高生）
  （小学生）科学への興味・（父兄）理解の促進・地域連携
- 院生のスキルアップ
  院生相互の交流コア・異分野交流
  人間基礎力養成（社会人・研究者として）

学内外における双方向の次世代女性研究者育成

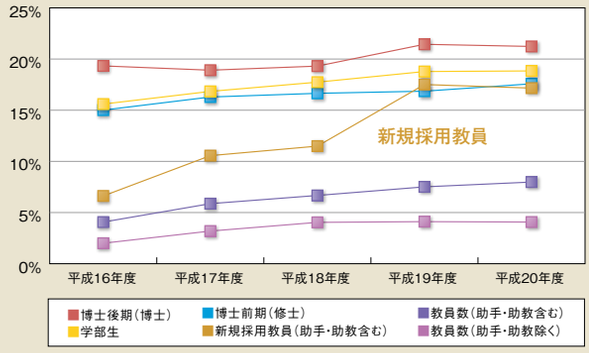
◎女性研究者交流フォーラム/シンポジウム

- **理系分野の男女共同参画**（H18.10.14）
- **夢を形にするチカラ-女性研究者ってかっこよくない?-**（理系白書シンポジウムin仙台 H18.12.23）
- **女性がもっと輝くには?**（H19.6.9）
- **女性研究者、欲しい支援、できる支援、そして大学の支援は?**（H20.5.24）
- **さあ、みんなでハードルを越えていこう!**（総括シンポジウム H21.2.28）

▲本になった
サイエンス・エンジェル

東北大学の女性研究者比率

■自然科学系女性比率推移



機関中枢部・意志決定機構への女性参画

- 総長特別補佐（男女共同参画担当）
- 総長室員に2名の女性教員
- 評価分析室に2名の女性教員
- Distinguished Professor30名中に3名の女性

男女共同参画・女性支援を推進するアクションプラン（井上プラン）・中期計画の策定・制度改革・規則改定

Outline

杜の都女性科学者ハードリング支援事業 活動概要

東北大学は大正2年（1913年）、わが国の大学として初めて女性に門戸を開きました。その伝統と実績の元、本学は全学を挙げて学内における男女格差の是正、研究・労働環境の改善、両立支援体制の充実などに努めています。そして、平成18年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業として本学の「杜の都女性科学者ハードリング支援事業」が採択され、平成20年度までの3年間にわたり、自然科学系分野での女性研究者育成の促進を目的として、女性研究者育成支援推進室が中核となって、育児介護支援、環境整備、次世代支援の3プログラムにより、女性科学者のキャリアパス形成に障害となる様々なハードルを乗り越えるための支援と諸制度の整備を展開してまいりました。

I. 育児介護支援プログラム（女性科学者の育児と研究の両立のための直接的支援）では、a)女性教員・技術職員が出産、育児を理由に研究を断念しないよう、研究を支援する補助者を配置する支援要員制度を、b)同じく育児中の女性職員・学生等の休日出勤や出張時のベビーシッター利用に係る経費の一部を補助する制度を実施しました。c)育児のための柔軟な勤務形態として短時間勤務制度を検討し、平成19年度の試行後、平成20年度より国家公務員に準じた制度を全学で実施しています。同時に、教員が育児休業等を取得した際に任期延長が可能になりました。

II. 環境整備プログラム（女性研究者の職場環境の改善等の間接的支援）では、a)大学病院内の病後児保育室「星の子ルーム」が推進室の経費支援による看護師と保育士の追加配置で、平成18年度全学の職員と学生が利用できるようになりました。平成19年度は300名、平成20年度は2月末の時点で340名が利用しています。b)女性用休憩室の整備のために、推進室は新設のための工事費、設備改善のための備品購入の支援を行い、平成19年度で本学の全ての自然科学系研究科と研究所で女性用休憩室が整備されました。

III. 次世代支援プログラム（次世代の女性研究者の育成）では、a）サイエンス・エンジェルとして採用された自然科学系部局に所属する女子大学院生（計141名）が、母校出張セミナー（延べ28回）や地域の科学イベント等での展示・説明を通じて、身近なロールモデルとして理系女子生徒の育成に取り組むとともに、学内における研究者交流の核として、部局交流会の開催、女性研究者等交流ネットワークの運営に携わりました。同時にサイエンス・エンジェル自身の研究者への進路選択の機会となりました。この次世代研究者育成制度は文部科学省、内閣府、仙台市、さらにマスメディアに注目されています。b)全学の女性研究者の交流促進のために、東北大学女性研究者交流フォーラムを毎年開催しました。

本事業を契機として、本学男女共同参画委員会との連携により、短時間勤務制度、育児休業等取得に伴う任期延長制度等の学内規則の改正、制度改革および施設改善が進み、また学内女性研究者交流および教員の男女共同参画推進に関する意識改革が促進されました。さらに、大学意志決定組織への女性の参画が加速され、本学のアクションプランへも「女性教員の増員に向けて、積極的かつ実効性のある目標の設定・実施、育児と研究の両立支援策の導入など、総合的・計画的な取り組みを推進する」と記載されることになりました。

これらの成果として、自然科学系分野での教員における女性比率は7.98%、学・院生の女性比率も学部生18.84%、博士課程前期生17.58%、博士課程後期生21.23%になりました。（いずれも平成20年5月1日現在）。すなわち、女性教員比率は事業開始前に比べ、2.11%増です。また、新規採用教員に占める女性数は、平成19年度177名中31名の17.5%、また平成20年度（平成21年1月1日現在）134名中23名の17.2%と、それ以前に比べ7%以上高く、また20%に迫っています。

このように、本事業は当初の目標を上回る優れた成果を達成していますが、今後も全学的な合意の元、この女性研究者支援モデル育成事業を継承し、さらに加速・発展させて、多様な方々が性別、国籍等を問わず、学問の場に集い、個性豊かな、人類の社会と福祉、未来に貢献する研究を創造し、さらに同時にワークライフバランスに優れた実り豊かな教育研究生活を享受することができるような組織となること、そして、それをリーディングユニバーシティとして、全国、さらに世界へ向けて発信し、貢献すること、それが我が国で初めて女子学生を入学させたという本学の歴史に恥じない、責務であると考えます。

本事業の推進に当たり、ご支援いただいた関係各機関の皆様に厚くお礼を申し上げます。

女性研究者育成支援推進室

平成18年度～平成20年度

女性研究者育成支援推進室構成員

室　長	折原　守	理事（人事労務・キャンパス環境・男女共同参画担当）（H20～）
室　長	野家　啓一	副学長（H18、H19）
副室長	大隅　典子	総長特別補佐（男女共同参画担当）／医学系研究科 教授
副室長	小谷　元子	理学研究科 教授

育児・介護支援班

室　員	松居　靖久	加齢医学研究所 教授（班長）
室　員	嵩　さやか	法学研究科 准教授（H19～）
室　員	山谷　知行	農学研究科 教授
室　員	栗原　和枝	多元物質科学研究所 教授
室　員	佐上　博	多元物質科学研究所 准教授
室　員	蘆立　順美	法学研究科 准教授（H18）
室　員	生田 久美子	教育学研究科 教授（H18）

環境整備班

室　員	田中　真美	医工学研究科 教授（班長）
室　員	石井　恵子	医学系研究科 准教授

次世代支援班

室　員	倉田 祥一朗	薬学研究科 教授（班長）
室　員	玉江　京子	理学研究科 助教
室　員	田村　宏治	生命科学研究科 教授
室　員	布柴　達男	生命科学研究科 准教授
室　員	畠山　純子	歯学研究科 助手（H18）

予算管理・積算班

室　員	米永　一郎	金属材料研究所 教授（班長）
室　員	松島　紀佐	工学研究科 准教授
室　員	久利　美和	助　手

女性研究者支援育成推進室スタッフ

我妻　絢（H18）　岩渕　美歩（H18～）　安住　ふみ（H18～H19）
佐藤　彩子（H18～H19）　小飯塚 さやか（H19～）　佐和　由紀（H20～）

〒980-8577 宮城県仙台市青葉区片平2丁目1-1
東北大学 女性研究者育成支援推進室
URL: http://www.morihime.tohoku.ac.jp
E-mail : mh_office@morihime.tohoku.ac.jp

Tohoku Women's Hurdling Project